

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492600069
法人名	社会福祉法人功寿会
事業所名	グループホーム「七ヶ浜桜の家」[ユニット名 あさひ]
所在地	宮城県宮城郡七ヶ浜町東宮浜字要害38-15
自己評価作成日	令和7年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	令和 7 年 2 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ前のように今年は5年ぶりに芋煮会を開催し地域の皆さんやご家族と交流する事ができた。面会制限をなくした事で、今まで来られなかったご家族と面会ができたり自宅へ一時帰宅したり、ご家族や会いたい方との絆を今まで以上に大切にしていけるよう支援している。地域の夏祭りやイベントへ桜の家の職員や入居者が参加すると共に、地域の方が桜の家に来て頂く機会を増やし、地域の方が認知症への理解を深められるように取り組んでいる。また、入居者ひとり一人がその人らしく桜の家で暮らし続けられるよう、職員で意見交換し話し合いを重ね、認知症への理解を深める努力をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームはJR仙石線の下馬駅より車で15分程で、小高い住宅地の一角に位置し地域に馴染んでいる。庭からは海の景色や山陰に沈む夕日も眺められ自然豊かな環境にある。家族からのホームに寄せる信頼感が暑い。地域の行事に積極的に参加し、町内会長はじめ地域の方々との交流は良好である。床走式介護リフトと機械浴の導入により、介護サービスの向上と職員の負担軽減も図られている。理念の「～笑顔 自由 思いやり～」と5つの行動指針に沿い、家庭的な環境の中でケアを実践している。目標達成計画の「コロナ禍の制限の時期を経て顔の見える関係が希薄だった」は、面会や行事の再開等で関係性が戻っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム「七ヶ浜桜の家」)「ユニット名 あさひ」

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	七ヶ浜桜の家の介護理念「笑顔・自由・思いやり」を朝のミーティングで唱和している。室内にも掲示している。	年度初めに行動指針の見直し共有している。以前のように地域の一員として外食等に出掛けられるようになった。入居者の笑顔が見られた時に、コミュニケーションが取れていると実感することがある。理念を大切に実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の夏祭りに参加したり、地域の方々にお手伝い頂き、芋煮会を実施した。	散歩時に近所の方と挨拶を交わしている。「要害夏祭り」で6名の職員がステージで披露した「仮面ライダーのヒーローショー」は、子ども達にも好評だった。外国籍の2名の職員を、地域に紹介する機会にもなった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が認知症サポーター養成講座の講師を務め、町内各地域を回って認知症について理解を深める活動を行っている。今年度からチームオレンジにも参画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者や家族、地域の方を交えて情報交換や意見交換を行い、サービスの向上に繋げている。	定期的に開催されている会議は、メンバーから多岐にわたる情報も得られ双方向の内容である。ホームは福祉避難所になっていることから、災害時には地域の避難場所として受け入れる体制になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	居室の空き状況や入居者の様子を伝え情報の共有を行っている。緊急性の高い方の優先的な入居に積極的に協力している。	各地で開催される町主催の認知症サポーター養成講座等の講師として管理者が出向き、認知症について正しく知ってもらう活動を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度身体拘束適正化委員会を開催し、話し合い改善に努めている。自由に行動出来るよう見守っている。	3ヵ月毎に「身体拘束適正化検討委員会」を開催し、職員は記録を回覧で確認している。親しさと馴れ馴れしい言葉がけの違いや、内出血の原因究明等を話し合い職員間での共有、認識を図っている。ICTも活用している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内出血ゼロ計画で、内出血を確認したら外傷確認表とケース記録に入力し、職員で情報共有し再発防止に努めている。	法人の8項目の「虐待防止のための指針」に沿って、パジャマの更衣を嫌がる方への声掛け等具体的な内容の検討をしている。結果は今後の対応方法や意見、助言反映事例の情報を共有し再発防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法定研修の中で権利擁護について学んでいる。まもりーぶや成年後見制度を利用している入居者がいるので、利用する意味を職員に伝え理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実態調査の時から、希望を良く伺いわからないことについての説明を懇切丁寧に行っている。契約時に説明しても一度に理解できないことも多いので、必要がある時に都度説明しご理解いただくよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、ご家族と意見交換したり事前にアンケートを実施したりして要望を聞く機会を設けている。体調の変化やこちらからの要望があれば、その都度電話をし伝えている。	11月から自由に面会をしている。面会後の入居者に柔らかい表情の笑顔が見られた。今年の家族会は母の日に合わせて開催された。事前に16項目から成るアンケートを取り、意見や要望を聞いている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、面談の機会を設けて意見を聞いている。月1回の全体会議で話し合いを行っている。	職員の提案で、業務日誌を早番と遅番に分担して記録するようになった。ディスポグローブ(使い切りの手袋)Mだけでは使いにくいとの意見があり、Lサイズも購入している。育休や早番等の希望があれば対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則が整備され、希望者には外部研修の機会や資格取得への支援体制が整っている。職員1人ひとりの能力やおかれている環境を理解し、皆が働き続けられるよう配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修はオンラインでいつでもどこでも受講できるようになっている。グループホーム協議会・ケアマネ協会・実務者研修など様々な研修を受ける機会がある。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の介護事業所職員との交流や、グループホーム協議会などの研修や交流会に参加し、他事業所の取り組みを学ぶ機会がある。	法人代表は宮城県認知症グループホーム協議会の会長を担っている。管理者も「GH協県央ブロック」役員や「実践報告委員」等を担当している。調剤薬局の居宅療養管理指導を受け、サービスの向上に活かしている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に直接会い、ご本人の様子を知る事が一番大切と考えている。ご家族やケアマネジャー・利用している介護事業所から情報を収集し、入居後の暮らしが今までの暮らしと大きく差が出ないように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や今までの経緯を時間をかけて伺い、ご家族の思いをしっかりと知ることを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	住まいが変わっても今までの暮らしが継続できるように支援することを考えている。ニーズの変化に合わせて柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も入居者もひとり一人の個性や能力を活かし、お互いに支え合い補い合える関係を構築するように配慮している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者ご本人とご家族の要望に寄り添い、職員・ご本人・ご家族が共に支え合える関係を構築している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者がご家族と共に家族の家や、お墓参りに出掛けたり、外食などに出かけている。	町の敬老会で懐かしい人に会ったり、囲碁の仲間が来訪し会話が弾んでいる。家族と墓参りし、立ち寄った店で好物の蟹を堪能した。入居後に知り合い、家に帰りたい気持ちの方にそっと寄り添ってくれる入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂やリビングで、お互いに関わり合える入居者同士を隣り合わせになるよう配慮している。一緒にコーヒーを飲んだり新聞を読みあったりと、入居者同士が話せるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じていつでも相談や支援を行えるように準備している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の進行により、気持ちの表出がうまくできない方もいる。桜の家は自分が建てた家だと思っている入居者がおり、話を聞いて欲しいという時には傾聴するよう努めている。	日常生活で入居者との関係性を築き、一人ひとりの暮らし方を把握出来るよう努力している。身内の仕事の手伝いに週4日通い、本人のやり甲斐になっている。訪問理美容でカットやパーマ、毛染めにも対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取りの他、ケアマネや多の介護事業所からの情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居して実際のご本人の生活の様子を観察し職員間で情報を共有している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員、日々のケアで悩みや困っている事を相談したり、気がついた事などがあれば会議で話し合い、現場で実践している。	日々の情報を「介護記録」に記載し、大切な情報は「連絡帳」で共有している。全体会議でモニタリングをし、職員で話し合ったことや、医師の意見も反映している。家族には来所時に報告し意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録として残し、他職員がいつでも見られるような状態にし振り返っている。大切な情報は連絡帳で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これまでご家族が対応できていたことを職員が代行したり、新たなニーズがある時は都度検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として、地元の方にボランティアをお願いすることが多い。地元の話ができるので楽しみにつながっている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を利用している方は、家族の付き添いで受診している。白内障の手術をした入居者があり、職員の付き添いのもと受診している。	家族の付き添いで2名がかかりつけ医を受診している。他の入居者は定期訪問診療を月2回受けている。殆んどの方は、月2回訪問歯科も受けている。看護職員は育児休職中で、訪問看護を利用している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内看護師の他、訪問看護ステーションを利用し、介護と看護で双方向の情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族に付き添い、ADLなど必要な情報を速やかに提供している。退院に向けて、どの段階なら受け入れ可能かをはっきりと明示し、速やかな退院に向けて調整している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化及び看取りの指針を説明し、本人とご家族の意向を確認している。状況の変化に合わせて意向を確認している。	状況の変化に伴う「看取りについての事前確認書」で「倫理的に問題のない範囲で本人・家族の要望を出来るだけケアに反映させたい」としている。意思表示が可能だった方の意向を直接確認し、主治医と相談しながら希望に沿った看取りを支援をした事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	防災訓練の中に位置づけて、繰り返し学び実践力を身につけている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	4月から11月は毎月避難訓練を行っている。10月に地区の方と避難訓練を行い、実際にどのように誘導しているのかを見て頂き、意見を伺う事ができた。	夜間か日中の避難訓練を毎月実施し、12月から3月までは、通報訓練や消火器の取り扱いを主に行っている。2月に消防署参加のAEDの訓練を予定している。反省や意見をまとめ次に活かしている。3日分の備蓄がある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段の声がけでも慣れ過ぎず丁寧な言葉で接するよう心掛けている。介助をする前には必ず許可をもらってから行っている。	男性と女性の入居者が半々で、男性には名字に、女性は名前に「さん」付けで呼んでいる。標準語と地元の方言のどちらか本人の好む方で対応する。外国籍の職員が方言で話し、微笑ましい雰囲気になることがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で入居者一人ひとりの思いを受け止められるよう努めている。部屋に戻りたいとか、新聞を読みたい、家族に電話したいと言葉にして伝えてくれる方もいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が歩きたい時は寄り添い歩いて頂いたり、居室の模様替えをしたいという方には手伝い、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りができる方は自分で行って頂き、着たい服も選んでもらっている。爪が伸びている方がいても切れない時があり、その時は職員間で情報共有し身なりを整えられるよう支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所に立ち調理をしたり、おしぼりを丸めて頂いたり、食器拭きや箸を配ったり、入居者と一緒に準備や片付けを行っている。	食材は宅配され、法人の管理栄養士が季節感を採り入れ、栄養バランスの取れた献立を作成している。職員も入居者と同じ食事を摂っている。行事食やケーキバイキング、ひな祭りに職員が握った寿司は好評であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が献立を作っている。食事水分量は記録している。入居者一人ひとりに合わせた食形態にして、ミキサー食にしたり、アレンジを加えて食事作りをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回歯科医による訪問診療を全員受けている。歯科医からケアのポイントや注意点を指導してもらい、実践に繋げている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツを使用していた入居者が腰痛でトイレまで間に合わず失禁する事が多かったため、リハビリパンツとパットを使用した。腰痛が軽減し失禁が減ってきたため、リハビリパンツのみにして様子を見ている。	圧迫骨折した方が、失禁が見られるようになりリハパンを使っていた。徐々にパッドだけ交換になり、腰痛の改善と共に失禁は見られなくなった方がいる。自尊心に配慮し、身体機能に応じて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを食べて頂いたり、水分摂取を促したり、その他主治医と相談しその人にあったお薬を処方してもらっている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	職員の体調不良により欠勤が続き入浴ができない日が多かったが、なるべく協力して入浴支援をしている。入浴用リフトがあるので、立てない、座位が保てない入居者も安全に入浴することができている。	毎日入る方が一人いる。両ユニットの浴室が隣り合い、戸を開けると機械浴を共有できる構造になっている。必要な方は入浴用リフトで安全に、全員が浴槽に浸かる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせて居室の空調を調節し、気持ちよく眠れるようにしている。全介助の入居者には介護用リフトを使いその時の体調に合わせて休息して頂いてる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	錠剤の服用が難しい方は粉末に変更している。入居者全員の薬がどんな薬を飲んでいるのか理解できていない職員もいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	高齢で立つて行う事が困難なため、食堂のテーブルにて洗濯物たたみをして頂いたり、食事後の食器拭きをして頂いている。毎日玄関先に出て落ち葉掃きをしてくれている方もいる。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ前のように外出が出来るようになったので、誕生会でラーメンを食べに行きたいと言う希望を聞き、外食へ出かけた。全介助の入居者を誕生会の日に、短い時間でしたが自宅へお連れし、奥様との楽しいひと時を過ごして頂いた。	日常の散歩や、外にテーブルをセッティングし外気浴をしながらおやつを楽しんでいる。ドライブや外食の機会も徐々に増えている。塩釜神社で車椅子移動に苦戦していた時、通りすがりの方が手伝ってくれたことがある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身のお財布にお金を所持し、外出した際には本人の好きな物を買えるように支援している。残金の確認を行い、職員間で共有している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話したいという要望があれば、電話をするようサポートしている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるよう温度管理をしている。日中で暗い時などは早めに照明をつけて調整をしている。職員不足でかなり小規模だが季節を感じるができる装飾をしている。	ホームと地域の方々合作の満開の桜の作品が玄関壁面に飾ってある。グループホーム「七ヶ浜桜の家」のシンボルになっている。居間と食堂は繋がっているが、別空間になってゆったりしている。奥の廊下に洗濯物が干してあり、加湿にもなり家庭的雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルテーブルで新聞を読み合ったり、会話を楽しんでいる方や、リビングでテレビを見ながら会話をしていたり、気の合う方と過ごせている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を持参してもらい配置を工夫したりしている。家族写真を壁に飾り、毎日話し掛けている入居者もいて、居室でテレビが見たいという入居者には家族と相談し、テレビを設置した方もいる。	持ち込んだ家具は、自宅と同じような配置にしている。家族写真や趣味の編み物、本、辞書、テレビ等も置いてある。仏壇や位牌、亡くなられたばかりの連れ合いのお骨を大切に安置している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表れをつけ、トイレはいつも同じ場所へ行けるよう誘導している。リビングのテレビのリモコンを置く場所を決めておくことで、見たい時に自分で見られるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492600069
法人名	社会福祉法人功寿会
事業所名	グループホーム「七ヶ浜桜の家」「ユニット名 さざなみ」
所在地	宮城県宮城郡七ヶ浜町東宮浜字要害38-15
自己評価作成日	令和7年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	令和 7 年 2 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が安心して自由に暮らせる、安全な環境づくりに気をつけている。 自分や自分の家族がここに入居したいと思えるようなグループホームを目指している。 介護する側と介護される側の関係性ではなく、リビングパートナーとして一緒に生活する場所づくりを行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームはJR仙石線の下馬駅より車で15分程で、小高い住宅地の一角に位置し地域に馴染んでいる。庭からは海の景色や山陰に沈む夕日も眺められ自然豊かな環境にある。家族からのホームに寄せる信頼感が暑い。地域の行事に積極的に参加し、町内会長はじめ地域の方々との交流は良好である。床走行式介護リフトと機械浴の導入により、介護サービスの向上と職員の負担軽減も図られている。理念の「～笑顔 自由 思いやり～」と5つの行動指針に沿い、家庭的な環境の中でケアを実践している。目標達成計画の「コロナ禍の制限の時期を経て顔の見える関係が希薄だった」は、面会や行事の再開等で関係性が戻っている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、やりがいと責任を持って働けている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム「七ヶ浜桜の家」)「ユニット名 さざなみ」

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	七ヶ浜桜の家の介護理念「笑顔、自由、思いやり」を朝のミーティングで唱和して職員同士で共有している。	年度初めに見直し共有している。以前のように地域の一員として外食等に出掛けられるようになった。入居者の笑顔が見られた時に、コミュニケーションが取れていると実感することがある。理念を大切に実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	要害夏まつりに参加したり、5年ぶりに桜の家で芋煮会を行い地域住民の方やご家族・入居者・職員とが交流を深めた。	散歩時に近所の方と挨拶を交わしている。「要害夏祭り」で6名の職員がステージで披露した「仮面ライダーのヒーローショー」は、子ども達にも好評だった。外国籍の2名の職員を、地域に紹介する機会にもなった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が認知症サポーター養成講座の講師を務め、町内各地域を回って認知症について理解を深める活動を行っている。今年度からチームオレンジにも参画している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、委員の方たちから地区の情報や教えて頂いたり、事業所内の行事や外出支援の参考にさせて頂いている。	定期的に開催されている会議は、メンバーから多岐にわたる情報も得られ双方向の内容である。ホームは福祉避難所になっていることから、災害時には地域の避難場所として受け入れる体制になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	居室の空き状況や入居者の様子を伝え情報の共有を行っている。緊急性の高い方の優先的な入居に積極的に協力している。	各地で開催される町主催の認知症サポーター養成講座等の講師として管理者が出向き、認知症について正しく知ってもらう活動を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を開き、身体拘束をしないケアについて学んでいる。また、身体拘束適正化委員会を3か月に1回行い不適切ケアについても職員間で話し合っている。	3か月毎に「身体拘束適正化検討委員会」を開催し、職員は記録を回覧で確認している。親しさと馴れ馴れしい言葉がけの違いや、内出血の原因究明等を話し合い職員間での共有、認識を図っている。ICTも活用している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や虐待防止委員会を開催している。不適切ケアの段階で職員同士注意や話し合える関係づくりに取り組んでいる。外傷があれば外傷確認票に記入して再発防止に取り組んでいる。	法人の8項目の「虐待防止のための指針」に沿って、パジャマの更衣を嫌がる方への声掛け等具体的な内容の検討をしている。結果は今後の対応方法や意見、助言反映事例の情報共有し再発防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法定研修の中で権利擁護について学んでいる。まもりーぶや成年後見制度を利用している入居者がいるので、利用する意味を職員に伝え理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実態調査の時から、希望を良く伺いわからないことについての説明を懇切丁寧に行っている。契約時に説明しても一度に理解できないことも多いので、必要がある時に都度説明しご理解いただくよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族から洗濯後の衣類の返却間違いが多いと指摘され、思い込みで返却せず、もう一度名前を確認してから返却するように取り組んでいる。	11月から自由に面会をしている。面会後の入居者に柔らかい表情の笑顔が見られた。今年の家族会は母の日に合わせて開催された。事前に16項目から成るアンケートを取り、意見や要望を聞いている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回管理職が面談を行い職員の意見を聞いている。その他にも全体会議や毎日のミーティングなどでも意見を聞いている。ディスプレイグローブのMで小さいとの職員の声がありLサイズを購入した。	職員の提案で、業務日誌を早番と遅番に分担して記録するようになった。ディスプレイグローブ(使い切りの手袋)Mだけでは使いにくいとの意見があり、Lサイズも購入している。育休や早番等の希望があれば対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則が整備され、希望者には外部研修の機会や資格獲得への支援体制が整っている。職員一人ひとりの能力やおかれている環境を理解し、皆が働き続けられるよう配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修はオンラインでいつでもどこでも受講できるようになっている。グループホーム協議会・ケアマネ協会・実務者研修など様々な研修を受ける機会がある。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の介護事業所職員との交流や、グループホーム協議会などの研修や交流会に参加し、他事業所の取り組みを学ぶ機会がある。	法人代表は宮城県認知症グループホーム協議会の会長を担っている。管理者も「GH協県央ブロック」役員や「実践報告委員」等を担当している。調剤薬局の居宅療養管理指導を受け、サービスの向上に活かしている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に直接会い、ご本人の様子を知る事が一番大切と考えている。ご家族やケアマネジャー・利用している介護事業所から情報を収集し、入居後の暮らしが今までの暮らしと大きく差が出ないように配慮する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や今までの経緯を時間をかけて伺い、ご家族の思いをしっかりと知ることが大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	住まいが変わっても今までの暮らしが継続できるように柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も入居者も一人ひとりの個性や能力を活かし、お互いに支え合い補い合える関係性を構築するように努力している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者ご本人とご家族の要望に寄り添い、職員・ご本人・ご家族が共に支え合える関係性を構築している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の文化祭に参加して旧知の方と親交を深めたり、町の敬老会に参加して親戚や地元の方たちにたくさん声を掛けて頂いている。	町の敬老会で懐かしい人に会ったり、囲碁の仲間が来訪し会話が弾んでいる。家族と墓参りし、立ち寄った店で好物の蟹を堪能した。入居後に知り合い、家に帰りたい気持ちの方にそっと寄り添ってくれる入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を考え食事の席を決めたり、入居者同士が支え合いながら、なくてはならない存在として生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じていつでも相談や支援を行えるように準備している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いつでも家に帰りたい方、気の合う入居者の姿が見えないとろうろうしてしまう方、いつもなにか作業をしていたい方、居室で過ごしたい方、など、それぞれが必要なケアを受けつつ意向に沿って生活できるように努力している。	日常生活で入居者との関係性を築き、一人ひとりの暮らし方を把握出来るよう努力している。身内の仕事の手伝いに週4日通い、本人のやり甲斐になっている。訪問理美容でカットやパーマ、毛染めにも対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取りの他に、ケアマネや他の介護事業所からの情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居して実際のご本人の生活の様子を観察し職員間で情報を共有している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のケアの中で職員の気付きを集め、必要に応じてご家族や医療機関に相談している。日々変化していく入居者の様子を把握し、介護計画に反映出来るように努力している。	日々の情報を「介護記録」に記載し、大切な情報は「連絡帳」で共有している。全体会議でモニタリングをし、遅番と夜勤の職員で話し合ったことや、医師の意見も反映している。家族には来所時に報告し意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を記録し、毎日のミーティングや連絡帳などで情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これまでご家族が対応できていたことを職員が代行したり、新たなニーズがある時は都度検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として、地元の方のボランティアをお願いすることが多い。地元の話ができるので楽しみにつながっている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を受診したり、通院が困難になった場合は往診を利用している。医療機関受診時には家族対応の場合でも身体状況が説明しやすいように書面にて報告している。	家族の付き添いで2名がかかりつけ医を受診している。他の入居者は定期訪問診療を月2回受けている。殆んどの方は、週1回訪問歯科も受けている。看護職員は育児休職中で、訪問看護を利用している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内看護師の他、訪問看護ステーションを利用し、介護と看護で双方向の情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の生活の様子など必要な情報を提供し、早期に退院できるように受け入れ態勢を病院側に提示している。医療福祉関係者が参加する地域の勉強会などに参加し顔の見える関係づくりに努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に必ずご家族に終末期の意向を確認している。身体状況が変わって来たタイミングで都度意向を確認し、それに合わせた対応をしている。意思表示が可能な入居者には直接意向を確認し、それに沿った医療を提供するよう主治医に相談し、意向に沿ってお看取りした事例がある。	状況の変化に伴う「看取りについての事前確認書」で「倫理的に問題のない範囲で本人・家族の要望を出来るだけケアに反映させたい」としている。意思表示が可能だった方の意向を直接確認し、主治医と相談しながら希望に沿った看取りを支援をした事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練の中に位置づけて、繰り返し学び実践力を身につけている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所は地区の福祉避難所に指定されている。また、毎月火災を想定した避難訓練を行っており、今年度は5年ぶりに地区住民の方に避難訓練に参加していただき、双方向での協力体制を構築している。	夜間か日中の避難訓練を毎月実施し、12月から3月までは、通報訓練や消火器の取り扱いを主にしている。2月に消防署参加のAEDの訓練を予定している。反省や意見をまとめ次に活かしている。3日分の備蓄がある。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人にあった声掛けの工夫をしている。丁寧な言葉を好む方や地元の方言で親しみやすい言葉を好む方など、その方の背景を理解し言葉を選んでいる。	男性と女性の入居者が半々で、男性には名字に、女性は名前に「さん」付けで呼んでいる。標準語と地元の方言のどちらか本人の好む方で対応する。外国籍の職員が方言で話し、微笑ましい雰囲気になることがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細なことだが、飲み物は冷たいものと温かいものとどちらが良いか、ぬるめと熱々どちらがいいか、など、日常の中でご本人が選ぶ場面を多くするように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日は寝て過ごしたい日もあれば皆さんとテレビを見ていたい日もあれば外の掃除をしたい日もあり、その思いを大切にしながら一緒に過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪をとくしたり髭を剃ったり、ボタンが取れた服やシミのついた服を着てしまわないように、上手に声がけてご本人らしく身だしなみを整えるようにご家族と協力している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	芋煮会では季節を感じてもらう為にサンマの塩焼きや芋煮を地域の方たちと一緒に味わった。サンマややきとりは男性入居者に手伝ってもらい、おにぎりは女性入居者が一緒に握ってくれた。	食材は宅配され、法人の管理栄養士が季節感を採り入れ、栄養バランスの取れた献立を作成している。職員も入居者と同じ食事を摂っている。行事食やケーキバイキング、ひな祭りに職員が握った寿司は好評であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分量を記録し職員間で共有している。食事形態を入居者の食べる能力に合わせて変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の指導の下で、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの場所がわからずいたところで排尿する方に対しては、タイミングを見ながらトイレ誘導をして失禁や放尿しないように取り組んでいる。	圧迫骨折した方が、失禁が見られるようになりリハパンを使っていた。徐々にパッドだけ交換になり、腰痛の改善と共に失禁は見られなくなった方がいる。自尊心に配慮し、身体機能に応じて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食で乳酸菌を取ったり、水分を多めにとってもらったりしている。歩いたり、座る姿勢を整えて腹圧がかかるようにしたり、主治医と相談しながら薬剤による排便コントロールを行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	特に入浴が苦手な入居者に対しては、職員が連携してご本人の気分の変化を読み取り、適時誘導をしている。声がけもひとり一人工夫し、お湯の温度や量にも気を配り、気付いて見れば気分よく入浴している。	毎日入る方が一人いる。両ユニットの浴室が隣り合い、戸を開けると機械浴を共有できる構造になっている。必要な方は入浴用リフトで安全に、全員が浴槽に浸かる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜に不安で眠れない方や、見回りをしないと落ち着かない方にはその都度安心できるように対応している。普段昼寝をしない方でも疲れているような時には声を掛け休んで頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	朝食前に血糖値測定をしている入居者がいるので糖尿病の薬についての理解が深まっている。内出血がしやすいなどの副作用がある事を職員に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	落ち葉掃き、雪かき、タイヤ交換、家庭菜園など職員と一緒にやっている。洗濯物を干したり、立ち仕事に難しい方は洗濯物を畳んだり食器を拭いたり、ひとり一人に合わせて支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者が外に出る時は職員が同行し、安全を確保しながら地域の方と挨拶を交わしている。ご自宅に一時帰宅したり家族と外食したり、他入居者と職員とでドライブや外食に出掛けたり、これからもっと機会を増やして行きたい。	日常の散歩や、外にテーブルをセッティングし外気浴をしながらおやつを楽しんでいる。ドライブや外食の機会も徐々に増えている。塩釜神社で車椅子移動に苦戦していた時、通りすがりの方が手伝ってくれたことがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金をご自分で持っている方は外にある自動販売機で飲みたいものを自由に購入している。ご子息が自分の財産を管理していることに納得していない方からは常にお金に関する苦情がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自筆または代筆の年賀状を全員家族宛に毎年出している。電話をしたい、電話で聞いてほしい、などの要望は常にあり、ご家族に協力して頂いている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	クリスマスや正月など季節ごとの飾りを行い、季節を感じられるように配慮している。トイレを汚したりフロア内に痰や唾を出したり床にうがいの水を吐き出す方がいるので、すぐに掃除するよう心掛けている。	ホームと地域の方々合作の満開の桜の作品が玄関壁面に飾ってある。グループホーム「七ヶ浜桜の家」のシンボルになっている。居間と食堂は繋がっているが、別空間になってゆったりしている。奥の廊下に洗濯物が干してあり、加湿にもなり家庭的雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファの位置を工夫してその方が居心地の良い場所に座ってもらえるようにしている。玄関にベンチを置き夏には夕涼みをされたり、一人で外を眺めている入居者もいた。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や小物を部屋に置いている。入居する時はベッドの位置をなるべく自宅居室と同じようにして、ゆっくり休めるように配慮している。居室内の整理整頓は本人任せにせず、一緒に過ごしやすい空間を作っている。	持ち込んだ家具は、自宅と同じような配置にしている。家族写真や趣味の編み物、本、辞書、テレビ等も置いてある。仏壇や位牌、亡くなられたばかりの連れ合いのお骨を大切に安置している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「いつもと同じ」であることを大切に、変化が必要な時は十分検討したうえでわからなくて困ることが無いように配慮している。		